未来の下田図書館

資料４

1. ワークショップ

第１回 WS：ドキュメンタリー映画の視聴と新しい図書館についてのディスカッション

目的：図書館機能の視野を広げる　日程：2022 年 8 月 21 日（日）　参加者：20 名

「くじらびと」鑑賞の様子

班で考えを共有し、まとめる

映画に関連する図書を展示

映画「くじらびと」を鑑賞し、映画の感想や未来の図書館イメージを班ごとに話し合い、相互に発表しあった。共有し、発表、図書館イメージディスカッションを行った。共感、考えを伝え合う、年代の違いによって様々な感じ方を共有できることができて良かったなどの意見があった。また、これからの下田における図書館のあり方については、様々な人と交流できる、図書館で行う楽しいイベントを行う、下田の職業・仕事を体験してもらえるなどの施設が欲しいという意見があった。最後にマナビノタネ森田秀之氏から武蔵野プレイス、せんだいメディアテークなどの自身の関わった図書館の事例が紹介された。WS の場自体が“図書館”の場であるということを理解すると共に、身の回りの本に関心を向けることができた。

第2回 WS：未来に向けた下田のわくわく図書館プロジェクト

目的：「下田らしい」図書館機能にとらわれない新しい図書館を考える

日程：2022 年 10 月 16 日（日）　参加者：21 名

第1回ワークショップ1回目を通して、これからの下田の図書館は本を読む行為だけではなく、イベントや職業体験の場など様々な行為が考えられることが示された。このことから第2回ワークショップでは、従来の図書館機能に捉われない新しい図書館の考えを引き出すことを目指した。

第1回 WS の意見をもとに新しい図書館の5つのテーマを大学院生が発表

①お気に入りの本から考える　②本を読むシーンから考える　③SDGｓから考える　④下田らしさから考える　⑤図書館を飛び出して考える

興味のあるテーマごとにディスカッションし、下田らしい図書館の発想を膨らませていく

ディスカッションの様子

まとめ作業の様子

5つのテーマを基にしたディスカッションから、図書館であることを忘れたかのように、下田の魅力的な場所や、オリジナルの仕組みなどの様々なアイデアがあがった。⑤図書館を飛び出して考えるテーマのグループでは、「海や山などの自然に囲まれながら読書をしたい」、「バス停、駅のホーム、釣り場などの待ち時間を有効活用して読書をしたい」、「一冊取ったら自分の本と交換する、フリー図書館があったらいいな」、「移動図書ならではのワクワクがありそう」、「スタンプラリーのような街中本巡りがあったら楽しそう」などの意見が挙がった。従来のハコモノ的な図書館捉われない、分散型の図書館である街中図書館の可能性が参加者と大学院生のディスカッションで生まれた。

2. 現地視察

視察概要　図書館整備のための候補敷地及び周辺の調査

拠点となる図書館候補地を視察

日程：2022 年 6 月 5 日（日）

視察地：伊豆急下田駅及びその周辺・本郷公民館跡地・旧稲生沢中学校・朝日公民館・中央公民館・下田市立図書館・あおき駐車場・下田市文化会館

第2回 WS から意見があったまちじゅう図書館の小さな拠点の候補地を視察

日程：2022 年　11 月 14 日（月）～ 11 月 15 日（火）

視察地：蓮台寺駅・花月亭・下田高校・稲生沢小学校・中央公民館・旧稲生沢中学校・稲梓小学校・高馬温泉地帯なまこ壁の建物・青少年海の家・稲梓基幹集落センター・JA ふじ伊豆下田北支店・わんさか・須崎漁民会館・下田プリンスホテル・まどが浜・下田郵便局ナンズビレッジ・くしだ蔵・道の駅開国下 田みなと・ライフル・WORK×ation Site 伊豆下田・下田市立図書館・村上書店・松本旅館・油画茶屋・土藤商店・昭和湯・旧澤村邸・草画房

下田市の地域特性　現状とまちじゅう図書館の小さな拠点の可能性

旧町内

観光客向けが多いが、住民同士のコミュニティもある。交流の場は多く点在するが利用されていない場所もある。

柿崎

観光客向けであるが、地域住民も見られる。大規模な広場を有するため、イベント開催に向いている。

箕作・相玉

高齢者の方が多い印象を受け、閉じたコミュニティである。稲梓小学校は本を学びに積極的に活用している。

須崎

漁村特有の住民コミュニティを形成しており、静かな場所である。年配の方が多いが、子供も一定数いる。

河内

学生、社会人が見られる。庁舎建替え計画に伴う人口、幹線道路整備による交通量の増加が考えらえる。

吉佐美

間接的なコミュニケーションの場がある。子供たちを中心に活気に包まれる。国道沿いは人が集まる。

田牛

観光客向きである。高齢者が多い。青少年海の家は建築として魅力があり潜在的な利用価値がある。

下田市全体に根付く本

下田市には、様々な場所に本が設置されていた。稲梓基幹集落センター、稲梓小学校、花月亭、蓮台寺駅、須崎漁民会館、くしだ蔵などはまちじゅう図書館の小さな拠点の先行例として考えることができる。

ワークショップのまとめ

（1 -1）下田市に住まう方々の独自の目線で見る下田の魅力を発見できた。

（1 -2）下田市に潜在的に必要とされる場所や活動の発見に繋がった。

現地視察のまとめ

（2-1）地域ごとに街並みはもちろん、人やコミュニティの形成方法など異なる地域特性があると考えた。

（2-2）もとから本棚を設置している店舗などが多く、まちじゅう図書館の素地が既に市内各所で見られた。

3.「未来の下田図書館」という発想

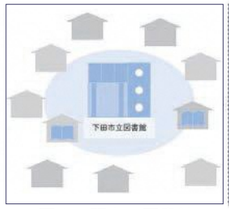


図１　現在の図書館

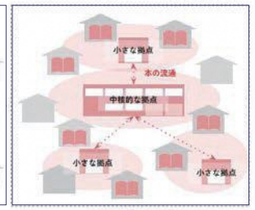


図２　これからの下田図書館

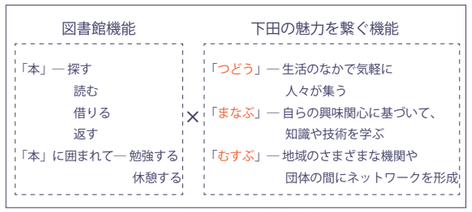


図３　機能のかけ合わせ

図４　市民が作る図書館

図５　従来の図書館

図６　未来の下田図書館

（１）図書館とまちの新しい関係

ワークショップの意見から、「もっと生活の身近に本が欲しい」、「居場所としての図書館をもっと充実してほしい」、「黒船祭りなどの日に図書館でイベントを行い、活用したい」という声があった。現在の下田市は、まちと図書館の関係が希薄である（図1）。そこで、まちなかに図書館機能を分散し、身近に本があることを日常化させることで、まち全体が図書館になる仕組みを提案する。具体的には中核的な拠点を中心に、下田市全体の小さな拠点に本が置かれ、身近に本があることを日常化させる（図2）。

（２）下田市の魅力をつなぐという視点

ワークショップと現地視察から感じた下田市の魅力として、人と環境の面が考えられる。具体的には、地域ごとに小さなご近所コミュニティが存在する点、観光資源が豊かで観光スポットも多く点在する点、観光客が多く足を運んでいる点、市民の人々のやさしさを感じる点などの人の魅力が挙げられる。また、山・川・海などの壮観な自然に囲まれている点、下田の文化をあらわす建物が多くある点、開国の歴史を感じることが出来る点、古くからの温泉があり、風情がある点などの環境の魅力も挙げられる。このように1つ1つの魅力はあるものの、それらは繋がっておらず、ただ点在しているだけに思える。これらを踏まえ、従来の図書館機能と下田市の魅力をつなぐ公民館的機能をかけ合わせることによって、図書館に新たな役割を持たせ、まちじゅうに地域の文化活動の場をつくりだすことを提案する（図3）。

（３）市民がつくる図書館という視点

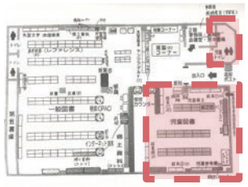
市民が作る図書館という視点から考える。ワークショップでの市民の発想と、現地視察で見つけた魅力的な場を組み合わせ、市民自らが活動の担い手となり、利用しながら図書館を作っていくことを提案する（図4）。

これらをつくる「未来の下田図書館」の仕組みとして、下田市と市民の役割を考える。下田市の役割は、「未来の下田図書館」の拠点の整備を行うこと、市民の利用や活動を支えることである。市民の役割は、図書館を利用すること、図書館で活動すること、まちじゅう図書館をつくることである。

また、今後も人口減少が予想される下田市では、従来の図書館の考え方（図5）とは異なる、各地域の市民の活動を支える仕組みが必要であると共に、それぞれの施設で図書館機能と様々な市民の生涯学習や文化的な活動が融合していく計画が望まれる（図6）。

4. 設計提案（例）

下田市立図書館の現状



住所：静岡県下田市四丁目7－16
敷地面積：537．10㎡
階数：3階
構造：鉄骨鉄筋コンクリート造
竣工年：1976（昭和51）年
延床面積：762.88㎡
（1階：348.08㎡　2階：340.60㎡　3階：65.22㎡　）
蔵書数：10万冊
開館曜日・時間：火～土曜日　9時～17時
日曜日　9時～16時

特長
- 親子連れの利用者が多い
- 児童図書の面積を比較的大きく確保している
（児童図書1／3、一般図書2／3）
- 図書の分類配置がわかりやすい

課題
- 必要な耐震性能を満たしていない
- 耐震工事にコストが掛かる（耐震工事中は利用できない）
- 2 階閉架書庫の面積が不足している
- 勉強スペース等デスクを伴うスペースがほぼ無い

拠点となる下田市立図書館の建替えプロセス

令和5年~8年
既存の図書館を利用

令和6年　現中央公民館を対象とした改修基本計画
令和7年～8年　改修設計・工事
令和9年　仮設図書館開館・供用開始

令和20年以降　新文化会館完成
図書館拠点機能を移転

下田市立図書館
現状

中核的な
拠点の整備

中央公民館

小さな
拠点の整備

蓮台寺ワーケーション複合施設

まちなか図書館

仮設移転・改修

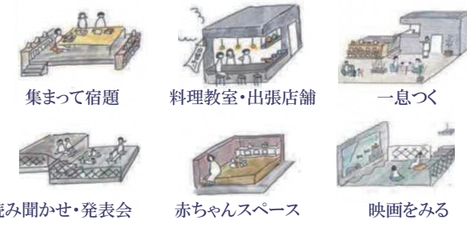
文化会館
本移転

ケーススタディ

1. 中核的な拠点の整備

中央公民館の改修提案

公民館機能と図書館機能の融合



2. 小さな拠点の整備

（1）蓮台寺ワーケーション複合施設の提案

（2）まちなか図書館の提案